

白馬村長 福島信行 殿

白馬村民フォーラム
代表 渡邊俊夫

提言書

去る12月15日、白馬村ふれあいセンターに7名の参加者が集い、「白馬村の農林業の今、そして未来（その2：林業）」をテーマに、第5回白馬村民フォーラムを開催しました。

世界、日本、そして白馬村における森林の現状とその課題、また、日本の森林に関する新しい動き、等々の資料を基に、限られた時間で真剣な論議をいたしました。

議論の結果を下記のように提言として纏めましたので、ここにご報告申し上げます。

■ 林政を司る者は長期的な視野に立った明確な方針を持つ

森を作っていく仕事は2世代以上の長い期間を要する。人口密度が高く、また工業先進国でもある日本が国土面積の67%という世界に稀に見る膨大な森林を保有してきたことは、世界に誇れることである。しかし、林業が生業として成り立たず、人口林の多くが崩壊している現状は、林政の貧困に他ならない。比較的短期で可能な以下の林政案等を積み重ねて、環境として流通として維持可能な林業を開発する時期がきていると考える。

■ 森林所有者に対する情報提供と地域内での話し合いの場を作る

森林の仕組みやその機能、森林を取り巻く社会的な変化、森林に関する県や国の新しい施策、これから求められていく森林像、等々、行政は元より森林に関わる様々な機関が森林所有者に対して適切な情報を提供する必要がある。また、集落懇談会等、地域の中で森林に関しての話し合いの場を作っていく必要がある。しかし、所有者の多くが地域内に住んでいないこと、また所有者の高齢化が進んでいることは十分に考慮する必要がある。公共工事から環境維持への流れの中での試行が望まれる。

■ 間伐材を始めとする木材の最大限の利活用を図る

「金にならない」（流通しない）ことが、森林（特に人工林）の崩壊を加速させている。様々な業態や機関、個人等が共に連携して、木材が多少とも「金になる」（流通する）ようにして行く必要がある。建築用材の地元での需要喚起は云うまでもないが、道路や放置地に敷くためのチップ加工、木質エネルギーのためのペレット加工、健康管理のための床下工法及び脱臭など燃料以外に使われることが多くなった炭加工等、積極的に新しい市場を開発する必要がある。

■ 一次産業の資源としての森林から観光資源としての森林への転換

森林が、総合学習の場として重要な役割を果たすことが注目されてきている。「森を知る、体感する」（森林の多様性や自然の仕組みを学ぶ）、「森の恵みを利用する」（森林と人とのかかわりを学ぶ）、「森を育てる」（育てることの意味や資源の循環利用を学ぶ）、「生きる力を育む」（人が生きる本質的な力を学ぶ）といった学習プログラムでの利用法がある。ハード（森林）とソフト（教育）の融合により森林が新しい観光資源となり、地域内での新たな雇用生み出すことも期待したい。これは白馬村の全村公園計画システムの中核をなすものとする。